

# 風紋

「気の合うルームメイトと一緒にいきいきと働ながら暮らしませんか」  
今春、東京都江戸川区に1軒のシェアハウスが誕生した。物件名は「フロラ西一之江」。宣伝文句を読む限り、最近若者に定着したシェアハウス……かと思いきや、入居者の顔ぶれがちよっと独特だ。現在の住人3人は60〜70代の女性。希望者に求人を紹介する仕組みも備え、全国初の「仕事付き高齢者住宅」をうた

## シニアの住まい多様化



フロラ西一之江のリビングで談笑する入居者(東京都江戸川区)

### 孤立避けシェア生活

う。区空き家対策事業を活用し、6LDKの2階建て住宅をリフォームした。2階の4室をそれぞれ入居者の部屋に充て、リビングや台所、風呂などは共用だ。具体的な年齢条件は設けていないが、働きながら自活する60〜70代の女性を想定しているという。

なせシェアハウスを選んだのか。71歳の女性は「一人暮らしのときは寂しさに堪えられず、就寝中もテレビを付けっぱなしだった」という。74歳の女性は「こ

先へ。夕食後は居間でおしゃべりに花を咲かせ、休日はお互い自由に過ごす。つかず離れず」の距離感が心地よいそうだ。

一人暮らしの高齢者にとって住居の問題は切実だ。健康に問題がなくても、年齢を理由に賃貸契約を断られることが少なくない。不測のけがや病気の不安もある。一般社団法人、生涯現役ハウスの持田昇一代表

「昼間は別々のパート先へ。夕食後は居間でおしゃべりに花を咲かせ、休日はお互い自由に過ごす。つかず離れず」の距離感が心地よいそうだ。

一人暮らしの高齢者にとって住居の問題は切実だ。健康に問題がなくても、年齢を理由に賃貸契約を断られることが少なくない。不測のけがや病気の不安もある。一般社団法人、生涯現役ハウスの持田昇一代表

だのか。71歳の女性は「一人暮らしのときは寂しさに堪えられず、就寝中もテレビを付けっぱなしだった」という。74歳の女性は「こなら孤独死の心配もない」。

「昼間は別々のパート先へ。夕食後は居間でおしゃべりに花を咲かせ、休日はお互い自由に過ごす。つかず離れず」の距離感が心地よいそうだ。

一人暮らしの高齢者にとって住居の問題は切実だ。健康に問題がなくても、年齢を理由に賃貸契約を断られることが少なくない。不測のけがや病気の不安もある。一般社団法人、生涯現役ハウスの持田昇一代表

(石川淳一)